

九州における野鼠の分布

平岩, 馨邦
九州大学農学部動物学教室

徳田, 御稔
京都大学理学部動物学教室

内田, 照章
九州大学農学部動物学教室

吉田, 博一
九州大学農学部動物学教室

<https://doi.org/10.15017/21425>

出版情報 : 九州大学農学部学藝雑誌. 16 (1), pp.157-163, 1957-03. 九州大学農学部
バージョン :
権利関係 :



九州における野鼠の分布¹⁾平岩 馨 邦・徳田 御 稔²⁾

内田 照 章・吉田 博 一

Distribution of field mice and voles in Kyushu

Yoshi Kuni Hiraiwa, Mitoshi Tokuda,
Teruaki Uchida and Hiroichi Yoshida

われわれは九州におけるネズミ類、特に“家鼠”^{*}を除いた“野鼠”^{*}の分布を知るために、昭和28年2月から昭和31年7月にかけて九州各地で主としてハジキワナ（パチンコ式）によるネズミ類の採集を試みた。採集は夏季には困難なので主として冬季に行つた。これらのハジキワナを、ソバ粉と小麦粉をほぼ等量にまぜて作った小団子を餌として、ネズミの孔口周辺に設置した。その他若干の金網製カゴワナも使用した。

その採集地は福岡県田川郡添田町（英彦山）、同郡香春町（香春岳）、小倉市平尾台、宗像郡岬村、粕屋郡山田村、同郡勢門村（若杉山）、同郡宇美町（大城山）、筑紫郡二日市町（天拝山）、同郡南畑村（筑紫耶馬溪）、福岡市多々良町、糸島郡志摩村芥屋、佐賀県鳥栖市基里町、藤津郡嬉野町、長崎県長崎市金比羅山、南高来郡小浜町（雲仙）、熊本県熊本市金峯山麓、阿蘇郡黒川村（阿蘇）、大分県別府市荘園町、玖珠郡南山田および飯田村（九重）、南海部郡宇目村（奥宇目）、宮崎県西臼杵郡高千穂町、日向市財光寺、宮崎郡田野町、北諸県郡庄内町（関之尾瀑附近）、鹿児島県姶良郡牧園町（霧島）、鹿児島市桜島である。これらの場所における採集は所によつてかなり長期にわたり行われた場合もあるが、一般には短時日に行われたので決して十分な資料とはいえないが、野鼠分布の概要は知りうると思う。これらの中、阿蘇山麓の野鼠の一部についてはすでに報告した（平岩・三宅・南・内田・澄川・吉田、'54）。

採集結果および考察

これらの採集場所の詳細と捕鼠結果は第1表および第1図に示す通りである。なお、特に住家に近い耕地ではハツカネズミ *Mus molossinus* が、また広い範囲にわたつてキヌシウシウヒミズモグラ *Urotrichus talpoides talpoides* がかなり多数同時に捕獲されたが、これらは表からのぞいた。第1表からわかるように、九州に棲息する野鼠、すなわちハタネズミ *Microtus montebelli*、スミスネズミ *Antelomys smithii*、ヒメネズミ *Apodemus geisha*、アカネズミ *Apodemus speciosus* およびカヤネズミ *Micromys*

1) 九州大学農学部動物学教室業績、第226号。文部省科学研究費交付金による総合研究“防鼠のための基礎動物学的研究”の一部である。

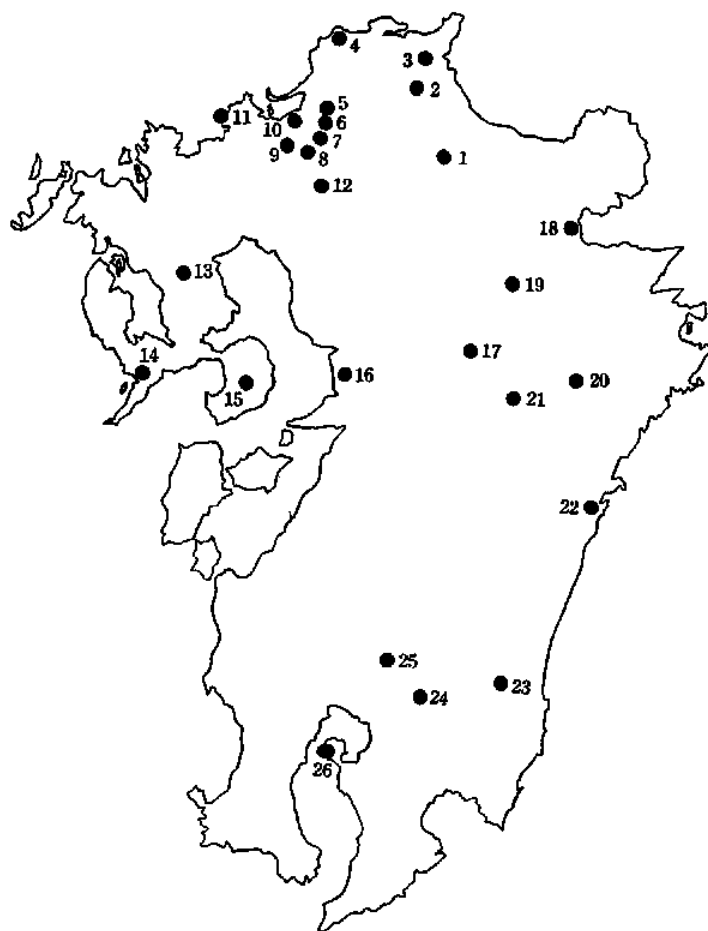
2) 京都大学理学部動物学教室。

* ネズミ研究グループの決議によりドブネズミ・クマネズミ・ハツカネズミを“家鼠”，その他を“野鼠”とした。

第1表 九州における採集記録

採集地	採集年月日	標高 (米)	ハネズミ	スミス ネズミ	ヒメ ネズミ	アカ ネズミ	カヤ ネズミ	計	備考
			♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀		
阿 蘇	15-16. II '53	600		1 2	2 1	4	1 1	24	針葉樹林 (スギ, ヒノキ, クリ, クマザサ)
	5. XII '53	570-640		1	1	3 7			"
金 峯 山 麓	17. II '53	100				5 2		7	雑木林
九 重 嶺 木 湯	20-22. XII '53	600			1			8	杉 林
		1100		2	1	3	1		畑地, 草地, 雑木林 (ナラ, クヌギ, クリ, クマザサ)
英 彦 山	26. XII '53	600-750		1	3 2	4 4	1	15	杉林, 杉植林地
雲 仙 仁 田 峠	13. II '54	1080		4 1	3	4 2		14	雑木林 (主としてイヌツゲ)
岬 村	26. II '54	100			1 3	4 5		13	雑木林 (クヌギ, ナラ, カシ, マツ, タケ)
天 拝 山 麓	8. III '54	90-100			1 1	4		6	雑木林 (マツ, ツバキ, カエデ, ヒノキ, サカキ, メザサ)
若 杉 山 麓	13. III '54	60-100			1	1 7	1	10	竹林, 針葉樹林, 耕地, 潤葉樹林
英 彦 山	9-13. IV '54	1200		3	6 4			31	ブナ林 (ブナ, ヒコサンササ)
		600-700		2 3	2 1	4			杉 林
		250			1	4 1			竹林, 杉林
山 田 村	14. V '54	200			2	2		4	雑木林 (カシ, シイ)
筑 紫 耶 馬 溪	13. VI '54	200			2	1		3	雑木林
平 尾 台	8. VII '54	360-420				1 1		2	草 地
岬 村	23. VII '54	50-80				4		4	畑地および山林
英 彦 山	10-12. VIII '54	1000			5 2			12	ブナ林
		-1200			性不明1				杉 林
		650-800			2	1 1			

天 井 山	23. XI '54	100-230				1 3		4	雑木林
		1000-1200		4 8	7 5	1			ブナ林
英 彦 山	22-26. XII '54	600-800		1		11 9	1	55	スギ、タケ、ススキ草地、杉植林地
		200			1 1	3 3			雑木林
鳥 栖 市	12. II '55	10	1					1	耕 地
大 城 山	12. III '55	350				1	3 2	6	ヒノキ植林地
奥 宇 目	3. VI '55	600-700		1		1		2	竹林、シイタケ栽培地
庄 内 町	12. XII '55	200			1	2		3	ヒノキ林、クヌギ、カシ林
霧 島	13. XII '55	750			1 1			2	モチノキを主とする雑木林
松 島 山 麓	14. XII '55	120						0	サカキ林、畑地
高 千 穂 町	15. I '56	300			1	1		2	雑木林(クヌギ、マツ、カシ、ササ)
日 向 市	16. I '56	10				1 2		3	畑 地
田 野 町	17. I '56	150						0	杉 林
別 府 市	18. I '56	100				2 1		3	ササ、ススキ草地
香 春 岳 山 麓	8. II '56	60				3 3		6	イデイガシ林
福岡市多々良町	I-IV '56	3	6 8				24 11	49	耕 地
嬉 野	8. VI '56	80				1		1	灌木林(ツツジ、マツ、カエデ)
金 比 羅 山	9. VI '56	250				1		1	ヒノキ林
芥 屋	8. VII '56	20					1	1	畑 地
計			15	34	67	128	48	292	



第1図 九州における調査地

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 福岡県田川郡添田町 (英彦山) | 14. 長崎市金比羅山 |
| 2. 福岡県田川郡香春町 (香春岳) | 15. 長崎県南高来郡小浜町 (雲仙) |
| 3. 福岡県小倉市平尾台 | 16. 熊本市金峯山麓 |
| 4. 福岡県宗像郡岬村 | 17. 熊本県阿蘇郡黒川村 (阿蘇) |
| 5. 福岡県粕屋郡山田村 | 18. 大分県別府市在國町 |
| 6. 福岡県粕屋郡勢門村 (若杉山) | 19. 大分県玖珠郡南山田, 飯田村 (九重) |
| 7. 福岡県粕屋郡宇美町 (大城山) | 20. 大分県南海部郡宇目村 (興宇目) |
| 8. 福岡県筑紫郡二日市町 (天拝山) | 21. 宮崎県西臼杵郡高千穂町 |
| 9. 福岡県筑紫郡南郷村 (筑紫耶麻溪) | 22. 宮崎県日向市財光寺 |
| 10. 福岡市多々良町 | 23. 宮崎県宮崎郡田野町 |
| 11. 福岡県糸島郡志摩村 | 24. 宮崎県北諸県郡庄内町 (関之尾溪附近) |
| 12. 佐賀県鳥栖市基里町 | 25. 鹿児島県姶良郡牧園町 (霧島) |
| 13. 佐賀県藤津郡埴野町 | 26. 鹿児島市桜島 |

japonicus は一応全部採集することができた。

アカネズミは捕獲した野鼠の約 44% を占めその分布は広く、各地で捕獲され、九大医学部寄生虫学教室で行った九州一円の野鼠採集（'51～'54）においても、多数のアカネズミが捕獲されている。またその棲息範囲は低地から高地まで、山裾の耕地から森林・草地にわたって広くみられる。すなわち、当地において最も一般的な野鼠であるといえよう。徳田（'50）によればアカネズミとヒメネズミの両種は *sympatric* に共存するといわれているが、興味あることは英彦山山頂においては全くアカネズミが採集されず、ヒメネズミによってその位置が占められていたことである。何故にこのような現象がみられるかは不明であるが、その要因の1つとして植生が考えられる。すなわち、この附近の植生が主としてヒコササササを下草とするブナ林であることがこの現象に関係するように思われる。また、この地域にヒメネズミが集群的に棲息する場合に、ヒメネズミと生活形がいくらか似ているアカネズミにとつては、その棲息環境として条件が悪くなることは考えられることである。ヒメネズミが集群的に生活している所では、アカネズミの個体数が著しく少いという現象は他地方においても見出されている（昭和 27 年 7 月、上高地徳本峠での徳田による調査）。いくらか似た *niche*（生態的地位）をもつ他種との相互関係は、個体数の増減にともなつて、その関係の強さを異にしてゆくと考えられるが、これらの関係は別報においてくわしく論ずる予定である。

ヒメネズミはアカネズミにくらべると採集個体数が少ないが、アカネズミに次いで多数採集せられ、その分布も広く九州一円にわたっている。しかし、その採集場所は花岡（'37）や徳田（'54）が指摘しているように森林に局限され、草地や耕地では全く採集されなかつた。そして徳田のいうように山林に深く入るに従い数をますます減らす傾向がみられた。

つぎにスミスネズミは全般的にみてヒメネズミについて多数採集され、広く九州一円に分布している。本調査ではスミスネズミは高山の中腹（約 600 m）以上でのみ採集された。このネズミは山林の裾にも棲息していることが知られているが、高距の地により多い傾向が認められる。

福岡市多々良町での採集個体を除くと、今回行ったような任意的な（at random）採集法によれば、ハタネズミおよびカヤネズミは前 3 者にくらべて捕鼠数が非常に少ないということが分る。ハタネズミは鳥栖市の標高 10 m の耕地で採集され、その後“ネズミ駆除モデル地区”としての駆除結果においても相当数のハタネズミが同地で捕獲されている。さらに福岡市多々良町の耕地でも、1 月から 4 月にわたる長期の採集で 14 匹のハタネズミをうることができた。従来九州にはハタネズミは非常に少ないのではないかと考えられていたが、これらの結果から地域によつてはかなりの棲息が推測される。徳田（'54）によればハタネズミはいる所にはかたまつているが、いない所には全くいないことが特徴的だと云われているが、殊に九州一円の低地の耕地におけるハタネズミの分布は、本州でみられるような農業・衛生上の害獣としての見地からも重要であり、詳細に検討することが必要である。

カヤネズミは低地からかなりの高地（1100 m）まで採集されたが、棲息場所は草地・耕地・若い植林地に限られ、森林中では全く採集されなかつた。その棲息数も局所的にはかなり集まっているけれども一般には少ないと思われる。

ハタネズミ、スミスネズミおよびカヤネズミは宮崎・鹿児島両県下では全く採集されえなかつたが、これは両県下での調査が比較的短時間で終われ、精査することができなかつたことに起因するものと思われ、できればさらに調査の要がある。

要 約

昭和 28 年から 31 年にかけて九州各地で主にハジキワナによる“野鼠”の採集を行つた。これらの結果の概要は次のようである。

- 1) これまで九州で採集されたアカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、ハタネズミおよびスミスネズミの 5 種を今回の調査で再び確認することができた。
- 2) これらの野鼠の中、アカネズミが最も優勢であり、ヒメネズミがこれに次ぎ、この両種が野鼠の大半を占めて広く九州一円に分布していることがわかつた。
- 3) スミスネズミはヒメネズミについて多く、600 m 以上の高地でのみ採集された。
- 4) ハタネズミは鳥栖・福岡の低地で採集されたのみであるが、集団的にかなり棲息することが考えられる。
- 5) カヤネズミも局所的にはかなり集つて棲息しているが一般には少い。

文 献

- 花岡利晶 1937 再び本州中部山地の鼠類に就て. *Clethrionomys rufocanus andersoni* (Thomas) とその分類の考察. 動 雑, 49(12): 429~436.
- 平岩馨邦・三宅貞祥・南学・内田照章・渡川精吾・吉田博一 1954 豪雨に襲われた阿蘇山麓の野鼠. 九大農芸誌, 14(3): 467~473.
- 徳田御稔 1950 御岳と八ヶ岳の鼠類——特に鼠類に於ける棲分けの問題—— 動 雑, 59(9): 210~213.
- 徳田御稔 1954 野鼠とその防除, 鼠の生態に関する諸問題. 日本学術振興会. 東京.

Résumé

We have made collections of murine mammals in Kyushu by snap traps from Feb. 1953 to Jun. 1956. These results are as follows, though the surveys in southern Kyushu are yet incomplete.

In Kyushu, the five species, namely *Microtus montebelli* and *Antelomys smithii* of *Microtinae* and *Apodemus speciosus*, *A. geisha* and *Micromys japonicus* of *Muridae*, are found as murine mammals dwelling in the field. Out of these, *A. speciosus* is most dominant and distributes from low to high lands in Kyushu, but the population gradually decreases as altitude becomes higher. *A. geisha*, though the habitat is restricted in the forest, is popular next to *A. speciosus* and especially abundant in the high land. The majority of murine mammals is said to be occupied by these two species in Kyushu.

Antelomys smithii is popular next to *A. geisha* and trapped upwards from the level of about 600 M. Generally its population increases with the increase of the height.

Microtus montebelli was trapped at the cultivated land in Fukuoka and Tosu about 10 M. Up to the present, it has been thought that this species is few in number in Kyushu, but judging from our results, it was known that this species inhabits fairly numerous in some restricted places.

Micromys japonicus distributes from low lands to the height of 1000 M. But its habitat is limited in the plain or the cultivated land, the numbers of individuals being pretty few.

Zoological Laboratory, Faculty of Agriculture,
Kyushu University